

2025年12月12日

報道関係各位

一般社団法人 日本電気計測器工業会（JEMIMA）

## 電気計測器の中期見通し2025～2029年度版 発行のお知らせ

海外拠点の売上を含む2024年度実績は前年度比+1.4%の1兆891億円で増加  
2025～2029年度の年平均成長率は+1.0%の見通し

一般社団法人日本電気計測器工業会（JEMIMA、会長 奈良 寿）は、当工業会の統計データをもとに2029年度までの電気計測器の需要見通し調査を行い、冊子「電気計測器の中期見通し2025～2029年度」を発行いたしました。

### 【概要】

2024年度の海外拠点の売上を含む「国内売上+輸出+海外拠点売上」の実績は、前年度比+1.4%の1兆891億円で増加となりました。2025年度は、前年度比-0.3%の1兆853億円でほぼ横ばいを見込みます。2026年度以降は、引き続き新技術の展開や生成AI関連、カーボンニュートラルに伴う需要増や設備投資により、2029年度は2024年度比+3.7%の1兆1,299億円、2025～2029年度の年平均成長率は+1.0%で推移すると見通しました。

また、「国内売上+輸出」の2024年度実績は7,495億円（前年度比+0.8%）の見込みに対して、7,500億円（前年度比+0.9%）と2023年度から65億円の増加になりました。製品群別では「PA計測制御機器：+124億円」「電気測定器（一般）：+77億円」「放射線計測器：+14億円」「環境計測器：+10億円」が増加し、「半導体・IC測定器：-100億円」「電力量計：-65億円」が減少しました。

2025年度は、新技術の展開に伴い需要が伸びる一方で、設備投資鈍化等の影響を受けて7,446億円（前年度比-0.7%）のほぼ横ばいを見込みます。製品群別では、電気測定器（一般）、放射線計測器、環境計測器は増加し、PA計測制御機器、電力量計は減少すると見込みます。

2026年度以降は、新技術の展開による需要増や設備投資、生成AI関連の需要増、カーボンニュートラルのプラス要因がありますが、一方で人口の減少や業界によっては設備投資が鈍化し、また各国の通商政策の変更などのマイナス要因も予想されており、2025～2029年度の年平均成長率を+0.5%と見通しました。

本日発表の「電気計測器の中期見通し2025～2029年度」は有料で頒布いたします。

発行刊行物：書籍名「電気計測器の中期見通し2025～2029年度」

発行日：2025年12月12日

頒布価格：一般：¥16,500-（税込・送料別）

JEMIMA会員：¥4,950-（税込・送料別）

「電気計測器の中期見通し2025～2029年度」発行・発表会の開催概要

主催：一般社団法人日本電気計測器工業会 調査・統計委員会

開催日時：2025年12月12日（金）13:30～16:20

開催形式：Zoom社 Zoom Webinars（ウェビナー）

## 「電気計測器の中期見通し2025～2029年度」の主な内容

### 【掲載内容】

序

第1章 本書の使い方

第2章 中期見通しの概要

第3章 電気測定器（一般測定器）

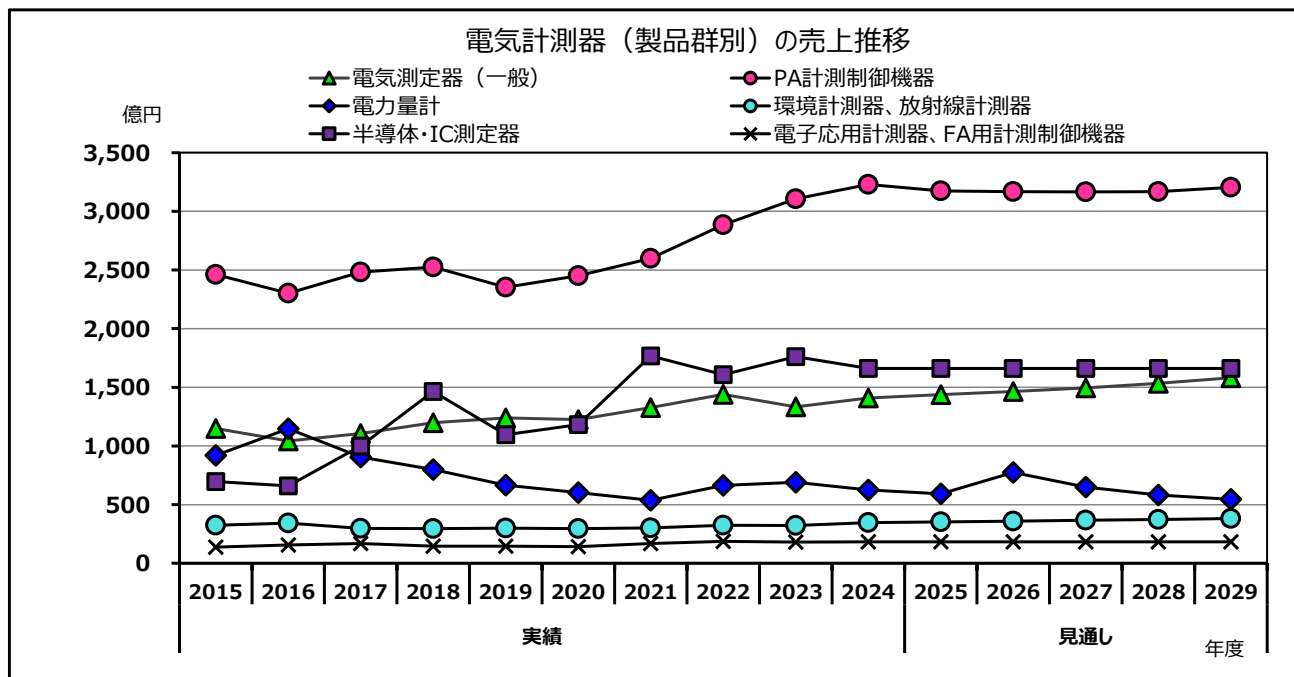
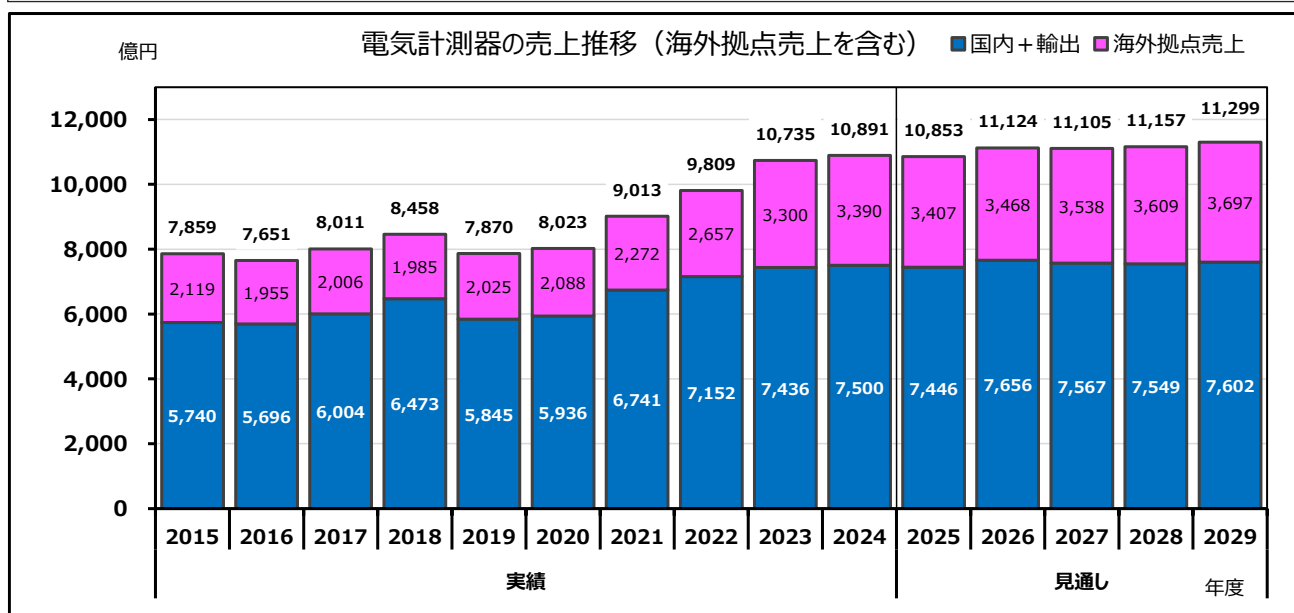
第4章 P A計測制御機器

第5章 電力量計（計器）

第6章 環境計測器

第7章 放射線計測器

第8章 工業会自主統計



※半導体・IC測定器、電子応用測定器、FA用計測制御機器は、2024年度売上実績をそのまま延長しています。